

第12回大島一般廃棄物管理型最終処分場運営協議会 議事録（要約版）

1 日 時 平成30年3月23日（金）午後1時00分から1時40分まで

2 場 所 大島町開発総合センター 大会議室

3 委員

住民代表委員6名（3名欠席）

大島町代表委員3名

島嶼一組代表委員2名（1名欠席）

4 議事内容

①司会による開会

②東京都島嶼町村一部事務組合事務局長の挨拶

③各委員の紹介

④座長選任

⑤座長挨拶

⑥一組より議事内容の報告

議事(1)「焼却灰の埋立実績について」

平成30年1月末までの合計埋立量は19,072トン

1月末現在約43.8%の埋立終了

(2)「水質検査結果について」

地下水沢部、地下水底部及び放流水について、全測定項目とも基準値以内

(3)「土えん堤工事について」

最大埋立容量49,500m³を確保するため、今後は土えん堤を段階的に築造しながら、第3段階から最終的に第7段階まで積み上げる計画。今年度は計画に基づき、えん堤工事等を施工。来年度にかけて上流側の第3段階を埋め進めるため、埋立地の中央付近に土砂を盛土して締め固め、えん堤を築造し、下流側は平面になるように中間覆土（蓋）を施工。中間覆土の厚さは50cmで、中間位置の全面に浸透防止シートを敷設。受注者はツバキ建設株式会社、契約額1,620万円、工期12月4日～3月30日。

(4)「広報での情報発信について」

昨年度の運営協議会で委員から要望があり、町と相談のうえ、今年度は、「広報おおしま」の10月号と2月号に2回掲載。10月号では、処分場の存在を紹介し、より詳細な情報は島嶼一組のホームページを案内。2月号では、トピックスとして土えん堤工事を紹介。来年度以降も、町と相談しながら、必要に応じた適切な、処分場に関する情報を「広報おおしま」などを通じて発信できるように努めていく。

⑦質問と回答

委員：「受入対象は焼却残渣と不燃ごみ」とあるが、不燃ごみとはどういうものか。

事務局：八丈処分場では、八丈町汚泥再生処理センターでの沈砂を不燃ごみとして通常受け入れている。大島処分場では、通常は基本的には入ってこないが、平成26年度に大島町の災害廃棄物の不燃ごみの受入実績（資料1-2参照）がある。

委員： 防災調整池は大雨・豪雨の際にいっぱいになることはないのか。25年度の大島土砂災害の時は大丈夫だったのか。

事務局： 大雨を想定して余裕率を考慮して設計・建設しており、今のところ想定内で、いっぱいになって溢れ出たことはない。当てもオーバーフローの実績はないと把握している。

委員： 埋立が約半分完了しているが、今後の見込みや土地の確保等の課題はどうか。

事務局： 現在のペースが続くと仮定すると、計算上はあと14年で埋立終了の見込み。できるだけ減量化を図って延命化するのが一番良い方法と思うが、それは各町村の減量化の取組み次第である。その後は、当初の基本計画では三宅島にも建設する予定だったが、噴火により棚上げになっている。ただ、島嶼地域は台風や火山といった自然災害がいつ発生するか分からない中で、当初計画では三宅島にも建設するということがあったが、三宅の火山活動もこの先予測できない。各島での減量化を進めていただき、できるだけ長く使うという中で、一定の時機が来たら、島嶼の町村長・議長で構成される一組の議会の中で検討すべき最重要課題であるが、三宅以外にも選択肢はあると思うので、自然環境に負荷を与えない形や財政負担ができるだけ少ない形などの視点からも検討したい。

委員： 処分場の埋立が全て終了した後、この土地は何かに見えるのか。

事務局： 一般的な管理型処分場は、平面に穴を掘って埋め戻す形で、平面になれば、例えばグラウンドや公園という利用方法はあると思うが、ここは山型に埋め立てるので、跡地利用は現実的に難しい形状である。当初から埋立地として使い終われば終了ということで計画されている。

委員： 放流水と地下水の基準値が同じではなく異なっているが、放流水のほうが地下水より綺麗になっているという理解でよいか。水質的にはいずれにしても問題ないのか。

事務局： 放流水は、施設からの排出水の放流基準値が（ダ イチツ類は）10pg-TEQ/lで、当水処理施設で処理すると、放流基準値よりかなり低い値で排出される。地下水は、環境基準値といって、自然界として（ダ イチツ類は）1pg-TEQ/l以内であれば特段問題ないという基準値があり、大島処分場の地下水を測定すると、環境基準値よりかなり低い値で、自然の値として得られている。どちらも水質的に何の問題もない。

委員： 以前、この処分場の見学会を実施したということだが（もうやらないのか）。管理棟に行って直接申し込みばよいか。

事務局： 運営当初は見学会を実施していたが、希望者が減少してきたこともあり、現在は見学会を設定するのではなく、随時申込みを受け付けており都度対応している。ホームページでもご案内のとおり、島嶼一組へ電話をかけて申込願いたい。

以上